

くすり博物館だより

VOL. 56

平成19年(2007)1月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel: (0586)89-2101 Fax: (0586)89-2197
http://www.eisai.co.jp/museum/

ミニ企画展「認知症を知る」開催期間 2007年1月9日(火)～4月15日(日)

テーマ特集◆ 図書検索とデジタルアーカイブコレクション

くすり博物館の企画展

内藤記念くすり博物館は、昭和46年(1971)6月に開館して以来35年が経ち、本年3月末までの累積入館者数は113万人に達しました。医薬関係者や地元・東海地区はもちろん、関東・関西方面から訪れられる人も少なくなく、最近の年間の入館者は4万人を越えております。

当館のコンセプトは、「くすりの歴史と文化を伝え、健康科学に貢献する」ことです。一方、「考古学的博物館にとどまらず、適切なテーマを適時選定し、薬学・薬業に関する知識の普及を意図する…」という当館の創立者である内藤豊次翁の当時の言葉が残っています。博物館の展示は、館の趣旨を形成するメインの常設展と、テーマを設定し期間を限定して実施する特別展・企画展から成ります。当館の場合も、常設展は歴史を伝える資料が展示の中心になり、啓発・普及を目的にした展示は特別展・企画展として実施してきました。

これまで実施してきた特別展・企画展は、開館当時の「加賀藩の秘薬」を皮切りに46回を数えるに至っています(別にミニ企画展4回)。「人類の恩人ルイ・パストゥール展」(1979、日本医師会主催)、「緒方洪庵と適塾展」(1980、適塾記念会と内藤記念科学振興財団の共催)、「天然痘ゼロへの道」(1983、日本医学会総会と内藤記念科学振興財団の共催、厚生省やWHOなどが後援)、「目で見えるくすりのあゆみ」(1991、国立科学博物館と内藤記念科学振興財団の共催、英国科学博物館およびスイス・バーゼル大学薬学史博物館のコレクション展示)等々、外部機関の主催で実施し好評を博した展示実績もあります。

一方、「現代の性教育」(1973)、「健康百寿展」(1973～77)、「心臓病・精神薬」(1974)、「家族計画教室」(1976)、「暮らしに生かそう身近な薬用植物展」(1981)、「大衆薬 '89-薬の正しい使い方」(1989)などは、健康科学や知識の普及の観点から創立者の意図を意識したテーマです。

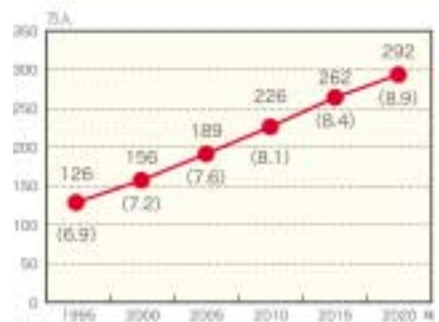
最近では、監修などを外部の専門家に依頼することはありますが、基本的には学芸員の研究成果をもとに博物館単独で実施する企画展が続いています。一昨年、カン研究所の指導のもと先端技術であるゲノムをテーマにミニ企画展を実施致しましたが、本年は、「認知症を知るホームページ www.e-65.net (イーローゴネット)」をもとにミニ企画展「認知症を知る」を企画しました。

館長 篠田愛信

認知症の状況

かつて、さまざまな疾患の中で大きなウエイトを占めていた感染症は、化学療法剤の開発・普及により治癒率が高くなりました。替わって課題となってきたのは老人病といわれる認知症であり、新しい感染症(AIDS、SAASなど)、がんなどです。中でも、アルツハイマー病に代表される認知症は、少子高齢化が進展して社会問題となっている日本だけでなく、世界的にも重大な疾患と認識されております。

認知症は以前には痴呆症といわれていましたが、正しい理解を妨げるとして改められました。現在日本で約200万人弱といわれている認知症の患者は、2020年には300万人近く(65歳以上の高齢者の約9%)に達すると厚生労働省は推計しています。また、65～69歳の1.5%に比べ、85歳以上では27.3%(平成4年老計第29号)と、高齢になるほど認知症が発症しやすくなります。認知症の中心症状の一つは記憶障害です。ヒトには、大脳皮質に情報伝達をつかさどる神経細胞が約150億個ありますが、加齢とともに一日に10万個程度消失していくといわれています。従って、老化に伴う「もの忘れ」は誰にでもあり得ますが、病気による脳の神経細胞の減少は急速であり、また、記憶障害だけでなく、見当識障害、判断力低下などさまざまな症状を伴います。



▲ 認知症患者数の推移(厚生省、1994年)



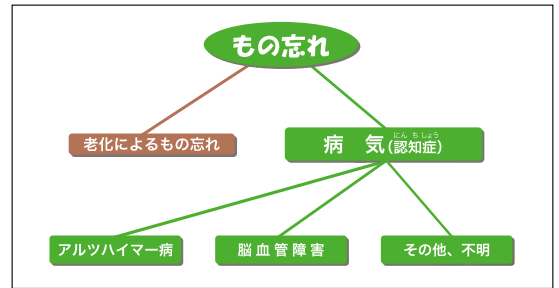
認知症の種類と特徴

認知症は、「脳や身体の疾患を原因として、記憶・判断力などの障害がおこり、普通の社会生活がおくれなくなった状態」と定義されています。その多くは「アルツハイマー病」(43.1%、1995)と「脳血管障害による認知症」(31.0%、同)ですが、アルツハイマー病の割合は確実に増加しています。故・レーガン元アメリカ大統領がアルツハイマー病であったことはよく知られています。

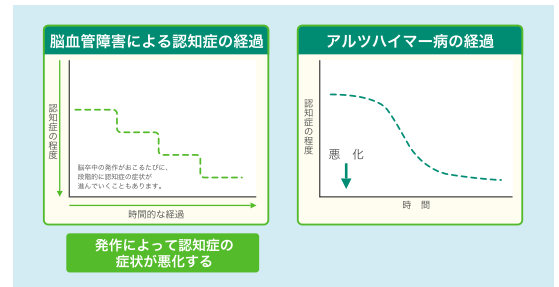
アルツハイマー病は、記憶障害だけでなく、判断・理解・思考など広範囲の脳機能低下をきたし、最終的には人格の崩壊にまで至ります。世界の多くの研究機関でアルツハイマー病について研究されていますが、現時点ではその原因はまだ特定されていません(アミロイドβたんぱく質原因説が有力)。アルツハイマー病の患者は特徴的な脳の変化がみられます。脳全体(特に側頭葉や頭頂葉)が萎縮する現象や、脳内では老人斑、神経原線維変化、神経細胞の脱落が認められます。また、脳内においていろいろな神経伝達物質の減少がみられますが、初期に記憶の働きに関わる神経伝達物質アセチルコリンの減少が明らかにされています。

一方、脳血管性認知症は、脳梗塞、脳出血など脳血管障害にもなつて発症する認知症です。症状として、めまい、しびれ、言語障害、知的能力低下などがみられますが、障害を受けた部位によりまだら状に現われます。脳卒中発作のたびに段階的に悪化するのが通例です。ただ、アルツハイマー病で喪失されがちな人格や判断力は保たれている場合が多いのが特徴です。

もの忘れと認知症



認知症の経過



アルツハイマー病の経過

第1期(前期)



記憶の障害が目立ち仕事などが続けられなくなる

第2期(中期)



場所や時間が分からなくなる徘徊や異常行動で自立が困難

第3期(末期)



家族の名前や顔が分からず会話や日常生活が困難、寝たきり

予防と治療法

誰しも認知症になりたくないと思ひ、予防法について強い関心があることに疑問の余地はありません。脳血管性認知症については、脳の動脈硬化につながる生活習慣病を防ぐことにより、基本的に予防の確度が高まりますが、原因が特定できていないアルツハイマー病については、予防法も今後の課題であります。ただ、一般論として、生き生きとした明るい生活、趣味をもち良好な人間関係の中で積極的な生活を送ることが、アルツハイマー病の予防に有効な手段になるであろうといわれています。

認知症もまた早期発見が大切です。治療すれば治る認知症もありますし、薬の投与により症状が改善されたり、病気の進行を遅らせたりすることもできます。また、本人や家族・介護者の生活の質を高め、介護の負担を減らすなど病気の進行後の対応のためにも早期発見は重要です。家族が日常生活の中で普段と異なる「おかしいな」と思われる変化、認知症を疑う症状に気づいたら、早期に医師の診断を仰ぐことが肝要です。

また、たとえ認知症の診断がなされてもあきらめてはいけません。認知症の治療として、薬物療法と非薬物療法があります。

エーザイ株式会社はアルツハイマー病の治療薬「アリセプト」の開発に成功し、日本国内はもちろん、欧米を含む世界88カ国(2006.9現在)で承認を得ています。この薬剤は、アルツハイマー病患者の脳内における神経伝達物質・アセチルコリンが減少していることに着目し、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤として開発されたものです。非薬物療法としては、ケアや心理療法(回想療法、リアリティ・オリエンテーション、アニマルアシストセラピー、音楽療法)があります。それらを組み合わせた治療を実施すれば、かなり効果的な症状の緩和を期待できます。

心身ともに健やかに老い、世界に誇る長寿国日本の面目を実質的なものにしていきたいものです。

認知症の症状



認知症高齢者を介護する家族が 最初に気づいた症状



＜出典＞本間 昭：毎日ライフ 第31巻第1号 2000年（一部改変）

家族のための認知症を疑うチェックリスト

本人の現在の日常生活と1年前の状態を比べてください

2：変わらない 1：多少悪くなった 0：とても悪くなった

1. 曜日や月がわかるか	2	1	0
2. 前と同じように道がわかるか	2	1	0
3. 住所・電話番号を覚えているか	2	1	0
4. 物がいつもしまわれている場所を覚えているか	2	1	0
5. 物がいつもの場所にないとき、見つけることができるか	2	1	0
6. 洗濯機やテレビのリモコンなどの電気製品を使いこなせるか	2	1	0
7. 自分で状況にあった着衣や更衣ができるか	2	1	0
8. 買い物でお金が払えるか	2	1	0
9. 身体の具合が悪くなったわけではないのに、行動が不活発になったか	2	1	0
10. 本の内容やテレビの筋がわかるか	2	1	0
11. 手紙を書いているか	2	1	0
12. 数日前の会話を自分から思い出すことができるか	2	1	0
13. 数日前の会話の内容を思い出させようとしても難しいか	2	1	0
14. 会話の途中で言いたいことを忘れることがあるか	2	1	0
15. 会話の途中で適切な単語がでてこないことがあるか	2	1	0
16. よく知っている人の顔がわかるか	2	1	0
17. よく知っている人の名前を覚えているか	2	1	0
18. その人たちがどこに住んでいるか、仕事などがわかるか	2	1	0
19. 最近のことを忘れっぽくなったか	2	1	0

総合得点が24点以下の場合、認知症の疑いがある

合計 点

本間昭・東京都老人総合研究所研究部長監修

専門職（医師・療法士）による心理療法

回想法



自分の人生を回想させることにより自己認識を回復させる

RO（リアリティー・オリエンテーション）



見当識を高め、周囲に関心を促すために行う

アニマルアシストセラピー



動物と触れ合う場所を設け、関心を促す

音楽療法



音楽演奏や鑑賞を通して、過去を想起させる

展示とパネルの監修：エーザイ株式会社知創部部長・高山千弘
認知症を知るホームページ www.e-65.net（イーローゴネット）

監修：東京都老人総合研究所・本間昭先生
住友病院神経内科主任部長・宇高不可思先生
（社）認知症のひとと家族の会理事・田部井康夫先生

薬草園から

薬草園の年間イベント

くすり博物館では薬草観察会・栽培教室などを毎年開催しております。

2007年度の薬草観察会は、毎月（12月を除く）第2日曜日の10:00-11:30、博物館大ホールで開催します。この観察会では、その月に花の咲く植物を中心に特徴や使い方、育て方などを紹介しています。毎回、薬草に興味のある方が多数参加され、観察会を楽しんでいらっしゃいます。

栽培教室の募集は12～1月に実施をしますが、毎年応募者が多数のため抽選となります。3～12月までの間に、自分たちの手で土作りから始め、栽培・収穫を行う教室です。栽培教室を終了された方は薬草友の会（ボランティアグループ）に入会することができます。

友の会の活動は、5月に行う薬草園フェスタと、月1回のペースで開催するイベントの企画が中心です。2006年度は、5月の薬草園フェスタの開催、カモミール・レモンガラスの摘み取り体験、ラベンダースティック作りから12月のリース作りまで、毎月さまざまなイベントを楽しみながら実施していただけたようです。

各イベントの申し込みは先着順としていますが、開催するイベントによっては、募集開始日に受付を開始後、30分ほどで定員に達したこともありました。皆様の関心がいかに薬草や植物一般、そして健康に対して向けられているかを、うかがい知ることができます。

来年も皆様に楽しんでいただけるイベントを企画し、友の会の方たちと共同で開催します。ぜひご参加ください。

薬用植物園 荻谷辰行



◀ 這う子人形

中に洗たくばさみが入っていて、はさんで止められます。ハーブを入れてあるので、いい香りがします。

図書検索とデジタルアーカイブ



図書館の蔵書が、「くすりの博物館」のウェブサイトから検索できるようになりました。書名や著者名、出版者、出版年などの部分的な情報から、探している図書を所蔵しているかどうか検索できます。博物館を訪れる前に、あらかじめ調べることができるので便利です。また、図書館内にも同様の検索システムが設置してありますので、ご来館いただいで利用することも可能です。

江戸時代の和装本を中心とする貴重書については、所蔵資料を文化財として永く後世に伝えるとともに、広く利用に役立てられるようにという趣旨から、ページごとの写真撮影を行い、鮮明なデジタル画像を保存していくデジタルアーカイブ化を進めています。

デジタルアーカイブとは、絵画や美術品、文書や歴史的な実物資料など、あらゆる文化資源を電子化して収納・整理したものです。半永久的に保存でき、検索や加工なども容易に行える、いわば文化のデータベースとして、多くの文化施設で推進されつつあります。

当館では、電子化した所蔵資料の画像をウェブサイトで公開しています。貴重書を1ページずつ読み解くように、鮮明な画像から内容が閲覧できます。

とびっくす

■パンフレットが新しくなりました

図書館が完成した機会に新しいパンフレットを作成しました。図書館についての情報のほか、年間の主なイベントや館内のバリアフリー設備についての記載を追加しました。

緑の中の博物館をイメージしてもらえよう、表紙の色を紺から緑へ変えました。また、屋根の形に合わせた切り込みを入れて、別のページの薬草の写真が見えるデザインになっています。

ご希望の方にお送りいたしますので、お申し込みください。



■当館の収蔵資料を貸し出しました

貸し出し日順に次の通りです。

- 岐阜県ミュージアム飛騨「まめかな？健康展」7/15～8/27（「解体新書」他）
- 福井県立歴史博物館「鬼～姿と伝承～」10/7～11/26（赤絵他）
- 広島市郷土資料館「広島近代医学のあけぼの」9/30～11/5（安の目薬資料他）
- 和歌山市立博物館「近世和歌山の科学者たち」10/21～11/23（吉益東洞・華岡青洲関連資料他）
- 三好町歴史民俗資料館「江戸時代のお医者さん—眼科医酒井家を中心に—」10/21～12/10（疫病資料他）

■アジア薬剤師会で特別展示

アジア薬剤師会は、アジア各国の薬剤師の職能レベル向上を目指して1959年に設立されました。今年、「医療における薬剤師の新たな役割」をメインテーマとした学術大会が横浜で開催されました。この大会の中で製薬技術の歴史、くすりの歴史に関する展示会が行われ、当館の資料70点余りを特別展示いたしました。

■ふれあいバス運行と神明小網橋の完成

このたび、各務原市内中心部から出発するふれあいバスの終点が、「内藤記念くすり博物館」となりました。

また、愛知県側からかかる小網橋の隣りに、片側一車線の神明小網橋（通称；思いやり橋）が完成しました。ウェブサイトにも江南・犬山・小牧市方面からの地図を掲載しました。

ふれあいバスと神明小網橋、どちらもご利用ください。

■「薬草ガイドブック」販売開始

この本は、写真と簡潔な説明で117種の薬草を季節ごとに紹介したガイドブックです。薬草利用の手引きのほか、簡単な利用法も記載されていますので、便利です。当館で1冊300円で販売しています。お求めください。（郵送可）

（社）日本植物園協会
第四部会編著



■セントレア中部国際空港でイベント

2007年1月27日（土）・28日（日）の2日間、中部国際空港で「木曾川夢空間 in セントレア」が開催されます。くすり博物館も、ブースを出展します。紙製おもちゃの「出てこい！くすりやさん」で遊ぶコーナーももうけます。

◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

厚生労働省医薬食品局審査管理課
河野 亨 小林健蔵 末廣雅也
杉浦儀平 大日本除虫菊(株)
寺畑喜朔 東條栄喜 幡谷 健
樋口輝雄 三島孝美 水野瑞夫
薬粧流通タイムズ 矢橋龍宣
～ありがとうございました～
(敬称略/五十音順)

内藤記念くすり博物館

開館/9:00～16:00

休館/月曜日

年末年始(12/28～1/8)

館長 篠田愛信

学芸員 稲垣裕美(編集担当)

学芸員・司書

野尻佳与子・伊藤恭子

庶務 森田麻起子

小島敦子(見学受付)

沼田 望(見学受付)

薬用植物園(栽培管理)

荻谷辰行 亀谷芳明 筒木 渡

顧問 青木允夫

アドバイザー 逸見誠三郎